

度重なる米軍事故に抗議し、ヘリの飛行中止と普天間基地の閉鎖を求める  
(談話)

2017年12月13日

安保破棄中央実行委員会

事務局長 東森英男

12月7日に宜野湾市の緑ヶ丘保育園に米軍ヘリの部品が落下した事故に続いて本日、同じ宜野湾市の普天間第二小学校の校庭に米軍CH53E大型ヘリの窓枠が落下し、児童が負傷しました。同校では体育の授業中であり、落下場所がずれていれば命にかかわる重大事故です。

子どもたちや住民の安全を脅かす米軍ヘリの相次ぐ重大事故に断固抗議し、当面米軍ヘリの飛行中止を強く求めます。

今回事故を起こした米軍CH53E大型ヘリは、10月11日に東村高江の民間牧草地で炎上、大破したヘリと同型機であり、7日の緑ヶ丘保育園への部品落下も同型機です。

このように重大事故を繰り返すヘリが市民の生活を無視して引き続き飛び回することは断じて認められません。

事故が相次ぐヘリが所属する普天間基地の周りは、緑ヶ丘保育園や普天間第二小学校をはじめ、学校、住宅、病院、ガソリンスタンドなどが密集する地域であり、米政府も「世界一危険」と認めています。

米軍事故から市民の安全を守るためには、普天間基地はただちに閉鎖、撤去すべきであり、辺野古新基地建設を「移設条件」として危険を放置することは許されないものです。

私たちは、安倍政権が、米軍ヘリの飛行中止を毅然として米国に求めるとともに、普天間基地の即時閉鎖、撤去を求め米国政府と交渉するよう、あらためて要求します。

以上